

スポット ライト

結成8年の男声合唱団「昴」が27日(日)、ザ・シンフォニーホールで第4回コンサートを開きます。1700人収容の大ホール。大舞台での演奏会を前に、稽古にもいっそう力が入ります。

「昴」は2000年春、「音楽は平和の力、生きる力」を合言葉に15人の団員で誕生しました。02年に日本のうたごえ祭典での1位をはじめ、うたごえコンクールで相次いで上位入賞。04年のファーストコンサートに続き、06、07年にコンサートを開催する傍ら、「九条の会」や労働者の集い、平和フェスティバル、ミュージカルの舞台、中国・南京の旅など旺盛に演奏活動を繰り広げ、団員も40人になりました。

メンバーの平均年齢は66歳。昨年3月入団した佐藤睦紀さん

結成8年の男声合唱団 27日、ザ・シンフォニーホールで

「昴」第4回コンサート

08.4.13 民報



大舞台に向け、けいこに励むメンバー
= 3月30日、大阪市中央区内

(64)は、「声を出すことをやってみたくて入ってみました。合唱は一人で歌うカラオケとは違って、みんなで一つの目標に向かって力を合わせていくのがい。最高に楽しい」と話します。過去3回のコンサートに600人から1100人の参加があったことから、1千人以上収容

できる会場を探していたところ、1700人のザ・シンフォニーホールが借りられることに。

本並美徳さん。

「シンフォニーホールでやるなんてみんな夢にも思っていませんでした。お客さんに満足してもらえるステージになるよう、8年間の活動の集大成として頑張りたい」と常任指揮者の

今回は「人間の尊厳をつたう」をテーマに選曲。この日のために集まった特別合唱団員とともに、三池闘争の炭鉱労働者の思いを力強く歌い上げる荒木栄の「地底のうた」を歌うほか、アメリカの圧政に立ち向かう南米の民衆の歌「花の歌」、ボスニア民族戦争の歌「葡萄とカタバミ」、「昴」が得意とするロシアの歌より「道」「アムール河の波」など、すべてを奪つ戦争をたんとんと歌う「死んだ男の残したものは」、日本の抒情歌など二十数曲を歌います。

指揮は本並さんと檀美知生さんがソロも披露します。一回のコンサートにソロが7人登場するのも、粒ぞろいの「昴」ならではの舞台です。

午後2時開演。JR福島駅下車。料金A席2300円(前売指定)、B席2千円(当日午後0時半から座席券と引き換え)。

090・8168・9347岡邑さん。